



心豊かに育ちあう

沢の子

令和7年度 重点目標

“すすんで考え学びあう、
笑顔あふれる”
子どもの育成

余市町立沢町小学校 令和8年3月24日(火) 第12号

なりたい自分

校長 森木 真也

令和7年度余市町立沢町小学校第79回卒業証書授与式が3月19日に举行されました。余市町教育委員 平田進様、沢町小学校PTA会長 菊池貴範様をはじめ、保護者のご臨席のもと感動的な卒業式を挙行することができました。お陰様で、29名の卒業生が沢町小学校を大変立派な姿で母校を巣立つことができました。ありがとうございました。

卒業式では、将来の幸せのために3つを話しました。

「夢なき者、理想なし 理想なき者、目標なし 目標なき者、実行なし
実行なき者、成果なし 成果なき者、喜びなし」

これは、元男子マラソン選手の谷口浩美さんが行動指針としていた言葉で、五輪経験に基づく教訓でもありました。元となったのは吉田松陰の残した言葉で、「成果あるものに幸せあり」も一部に綴られています。先ず、「夢」をもつことが幸せにつながるということを話しました。

「楽は苦の種 苦は楽の種」「若い時の苦勞は買ってでもせよ」と昔から言われますが、困難こそが人の成長する糧になることは多くの大人が経験していることです。苦難は人を成長させ幸せに近づけてくれることを伝えました。

最後に話した未来への扉は、ほんの少しの勇氣と知恵と力をもって、自分自身で見つけた鍵でしか開けることができないということです。そのためにも家族・友達・先生をはじめ、多くの人が支えてくれていることを伝えました。

卒業後にも思い出してもらえよう、3つの漢字「夢」「難」「扉」を示して話しました。

明日からは春休み期間となり、子どもたちは次の学年の準備が始まります。この時期、1年前のお子さんのことを思い出し、お子さんの成長を明確に感じる方も多いのではないのでしょうか。春がやってくるたびに、時の流れの早さを感じます。繰り返す春の季節に、子供一人一人の幸せを願うとき、前述の「夢→理想→目標→実行→成果」の段階的な努力が思い浮かぶのです。「今の自分には〇〇な夢があるからこれをがんばる。」と明確に言える子どもは理想的です。夢はその時々で変化していいのですが、せめて近い将来になりたい自分像は描いてほしいのです。親子で話す中で「こんな人になれたらいいな。」、友達と接していて「あの人がみたい気がするがさりげない人になりたいな。」、テレビを見ていて「こんな素敵なおこと自分にもできるかな。」など、きっかけはいくらでもあります。

このことは何も、卒業生だけの話ではなく、全校のみんなにも願うことでもあります。ご自分のお子さん、または近くの子供は将来の夢に向かって努力する姿はあるのでしょうか？明確に定まっていなければ、「こんな自分になりたい」と思うことから始めようと、促してみませんか。春休みは次の学年の準備期間ですので、あっという間に終わってしまいます。学習用具の準備をする中で、新しい物品を購入する中で、ちょっとした会話を工夫するだけで、なりたい自分を聞き出せるのではないのでしょうか。または、地域のご近所の子供に、「何が好き？」「どうして？」と聞くだけでも、なりたいものが見つかるかもしれません。どうか、春休み期間中も、沢町小の子どもたちの見守りを、よろしく願いいたします。

1年間の本校への温かいご理解とご支援・協力を賜り、心より感謝申し上げます。